新社長

長期展望で身の丈に合った投資実施

ノボル鋼鉄 三上 晃史氏

グループ売上高100億円目指す

ノボル鋼鉄は2015年10月に創立70周年を迎えた大手特殊鋼問屋。父の三上聡彦会長（70）は社長在任29年で、昨秋に元全日本特殊鋼流通協会会長として旭日小綬章を受章したのを節目にトップ交代を決めた。創業者の祖父、故三上登氏の背中を見て育ち、小学生のころから3代目と呼ばれることがあったが、8月末に就任し「重責を感じます」と。

三上会長は「若いだけに行動力がある。協調性もあり、リーダーシップも発揮している」と評する。この5年で社員数の5割近くに相当する56人が入社するなど世代交代が進み、トップ交代の機は熟していたようだ。

同社はリーマンショック直前に策定した第2次中期計画で「グループ売上高100億円」を目標に掲げたが、その後の環境変化で目標を取り下げた。就任後に「もう一度、グループ売上高100億円を目指そう」と社員に呼び掛けた。ノボル精密、ノボルエンジニアリング、ノボル精機鋼材販売、機械加工、熱処理加工。鋼材販売ではメーカーを含む取引先との連携強化、販路の開拓を推進し、取引先流通によっては将来展望を拓く上で協業深化を模索する。

機械加工では宮城テクニカルセンター、ノボル精密、ノボルエンジニアリングで既存顧客との取引拡大を図り、福島テクニカルセンター（南相馬市）の拠点活用も進める。福島は「人の確保が一番の課題」になる。事業譲受けで発足したノボルエンジニアリングのようなM&Aも前向きに検討する。

熱処理では静岡支店・熱処理センターのリフレッシュ投資を通じて、「厳しい作業環境で頑張ってくれている社員が少しでも働きやすくなる環境づくり」と処理能力の向上を進めて行く。

ノボルエンジニアリングで1年前からモンゴルの技能実習生（女性2人）を受け入れ、周囲も良い刺激を受けている。この11月からは熱処理センターでミャンマー人の技能実習生を受け入れる。

「大学時代は海に年200日いたこともあった」が、週末ゴルフの機会が増えて、今は年2、3回のサーフトリップを楽しむ。

（谷山 恵三）

略歴

三上 晃史氏（みかみ・こうじ）2000年（平成12）帝京大法卒、大同特殊鋼入社。04年ノボル鋼鉄入社、05年経営企画室次長、06年テクニカルセンター副センター長、07年取締役・ノボル精密常務兼任、11年常務、16年ノボルエンジニアリング社長兼任、17年8月28日社長就任。東京都出身。昭和53年3月生まれ。